

FortiGateのライセンス体系その他への評価

—再びFortiGate製品についてお尋ね
したく思います。アプライアンスとしての
性能以外の面で、FortiGateにつ
いて評価すべき点はありましたか？

(長谷川様) ライセンス体系は非常に
大学向きでしたね。製品によっては、
ゲートの恩恵を受けるクライアントで、
料金を算出する物もありますが、駒澤
大学の場合、学生がざっと17000人い
るので、下手をすると、17000クライアントで
掛け算をすることになってしまい、積算
額が膨大になることもあります。しかし
FortiGateの場合、ゲートに何台接続
されようと関係のない、ハードウェア一台
あたりポッキリいくらかという価格体系で
したので、非常にシンプルでした。

—その他、ご感想はございますか？

(分銅様) 管理コンソールが使いやすく
シンプルにまとまっているのはとても良い
と思います。これなら経験のない人でも

設定ができそうです。また、速度につい
ても、期待通りのパフォーマンスが出て
おり、満足しております。後は、実際に
使ってみて実感することですが、やはり
アプライアンスとして、いろいろな機能が
小気味よくワンパックにまとまっている
のは、とても管理しやすいですね。

—フォーティネットやIOSに対し、ご意見、
ご要望があればお知らせください。

(分銅様) 大学ネットワークで考えな
ければならないのは、やはり持ち込み
PC対策ですね。いくら玄関口である
ゲートウェイを固めても、内部接続からや
られたら終わりです。もし可能であれば、
フォーティネットで、その辺のことをうまく
解決するようなアプライアンスを出して
くれると嬉しいですね。

(長谷川様) IOSさんにはいつもご無理
ばかり言っていますが、いつもちゃんと
対応してくださり、感謝しております。



▲「ライセンス体系が大学向きでした」
総合情報センター 長谷川裕美子氏 (写真中央)

今後も宜しくお願いたします。

(徳本様) IOSさんには、今後も様々な
情報を提供してほしいと思っています。
ビジネスとしての健全な利幅はとって
いただいて結構ですから、それに見合っ
た良い提案をどんどんしてほしいと思
います。そういう関係を保つことが究極的
には駒澤大学の利益にもなると考えて
います。

—今日は貴重なお話を有難うござい
ました。

※取材日時：2004年12月

※この使用感がすべてのお客様で実感できることを保障するものではありません。

■開発元

FORTINET
フォーティネットジャパン株式会社
www.fortinet.co.jp

■販売元

NetWave
図研ネットワーク株式会社

〒222-8505 横浜市港北区新横浜3-1-1 TEL:045-473-6821

〒530-0003 大阪市北区堂島1-6-20

堂島アバンザ7F[(株)図研内] TEL:06-6343-1145

http://www.znw.co.jp

FortiGateお問い合わせ — E-mail: ft-info@znw.co.jp

※ 記載された社名、各製品名は各社の登録商標または商標です。
※ 記載された内容は、変更する場合がありますのでご了承ください。

お問い合わせ

駒澤大学のFortiGateへの第一印象は
『性能、仕様は申し分ない。
だが外資系は後の対応が心配だ…』であった。
その不安要因が、どのように解消されていったのか、
総合情報センターの徳本氏、長谷川氏、
そして常駐SEの分銅氏に聞いた。

今回は、駒澤大学の先進事例をご紹介します。

総合情報センターの徳本克彦様(写真右)、

長谷川裕美子様(写真左から二番目)、

そして駒澤大学に常駐しているSRA社の分銅淳至様

(写真右から二番目)、および今回のFortiGate導入で

中心的な役割を果たしたIOS社の井上倫史さん

(写真左)にお話を伺いました。



今回、駒澤大学が導入した製品：FortiGate-3000(1台)

大学のネットワーク環境にはもともとウイルスが来やすい…

—駒澤大学がFortiGateの事を知っ
たのはどういうきっかけからですか？

(徳本様) IOSの井上さんからの紹介
で初めて知りました。それまでもSMTP
ゲート対策は既にやっていましたが、ウ
イルス状況も悪質化してきたので、やはり
httpやftp、場合によってはコンテンツ
フィルタリングの対策もきちんとやらな
ければならないと考えた次第です。大学
と言うのはそれでなくてもウイルスが来や
すいところですし…

—ウイルスが来やすい…と言いますと？

(分銅様) 一般企業の場合、セキュリ
ティ確保のため、閲覧可能コンテンツを

制限することも可能かもしれませんが、
大学という所は研究機関なので、様々な
インターネット・コンテンツに自由に接続で
きなればなりません。いろいろなコン
テンツを閲覧できる「自由」の裏側には、
やはり「危険」も潜んでいます。また最近
は、論文にメールアドレスを記載すること
も当たり前になりました。そうして先生方
が、海外とメールのやり取りを活発化す
ると、同時に海外発のウイルスが素早く
来襲することもあります。

—なるほど。

(分銅様) また駒澤大学の場合、持ち
込みパソコンの大学ネットワークへの接続



▲17000人を擁する駒澤大学キャンパス

が比較的、自由に行えるような運用になっ
ています。この場合、ウイルス対策のレベ
ルは、パソコンを持ち込む側、つまり学生や
先生の“自主性”に依存することになり
ます。この場合、パターンファイルの更新な
どのセキュリティ体制に“綻び”が出る可
能性は否定できません。クライアント側の
完璧性に依存できない以上、やはりゲート
ウェイで一括対策することが肝要です。